

科目名		基礎デザイン実習A							年度	2025		
英語科目名		Basic Design Practice A							学期	前期		
学科・学年		デザイン科	グラフィックデザイン専攻	1年次	必／選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員		中田和彦				教員の実務経験		有	実務経験の職種		画家	
【科目の目的】												
デッサンを行うことは絵画表現の技術を習得することはもとより、物事を観察する能力や美を感じ取る感受性を育てるために大変効果的な手法です。対象物を目の前にして作品を創るためにどう向き合えばよいかを実習を通して体験していきます。												
【科目の概要】												
基本から応用へと、様々な対象物（モチーフ）をデッサンしていきます。基本構造を踏まえモチーフを捉えることができる観察力。明暗、立体、質感表現、パースペクティヴを中心とした空間構成のテクニックに至るまで、段階を踏んだ課題を通して基本的描画力を身に付けていきます。そして、講評会による作品発表の場を設け、作品鑑賞における視点を学びます。作品制作に関連する美術様式や用語を知り、自身の作品表現の幅を拡げる応用力に繋げてください。												
【到達目標】												
A. 基本形態のプロポーションと構造を理解して美しく形が描写できる。 B. 明暗を観察し、陰影を塗り分け立体的に表現できる。 C. 対象物の特徴をよく観察し、質感が表現できる。												
【授業の注意点】												
制作姿勢を正しく保てる環境作り。アトリエの整えられた空間で、緊張感を持ち、それにより高められる題材への感受性を知ること。“描く喜び”は“観る喜び”と通底していることを体験してください。												
評価基準＝ルーブリック												
ルーブリック 評価		レベル5 優れている		レベル4 よい		レベル3 ふつう		レベル2 あと少し		レベル1 要努力		
到達目標 A		基本形態のプロポーションと構造を理解して美しく形が描写できる。				基本形態のプロポーションと構造をおおむねとらえて描写できる。				基本形態のかたちが正確に描写できない。		
到達目標 B		明暗を観察し、陰影を塗り分け立体的に表現できる。				陰影を塗り分けおおむね立体的に表現できる。				明暗が観察が足りず立体的に表現できない。		
到達目標 C		モチーフの特徴をよく観察し、質感が表現できる。				モチーフをよく観察しているが、質感が表現できない。				モチーフの観察が足りない。		
【教科書】												
教科書は必要としないが、学生が求める場合は推薦参考書を紹介する。												
【参考資料】												
必要に応じ参考資料や動画を配布する。												
【成績の評価方法・評価基準】												
提出された課題による評価60％。出席率による評価40％。												
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。												

